

第6回(2023年度)指定課題研究・中間報告

薬剤師のハラスメントを受けている実態と
Well-Beingの関連性に関する調査研究

菊岡正芳

(日本経済大学大学院ファーマシーマネジメント研究所研究員 / 医療経営士3級)

【研究目的】

薬剤師のハラスメントに関する実態調査と、Well-beingの実態調査を行い、それぞれの実態を明らかにするとともに、ハラスメントとWell-beingの関連性を明らかにする。

【研究の概要】

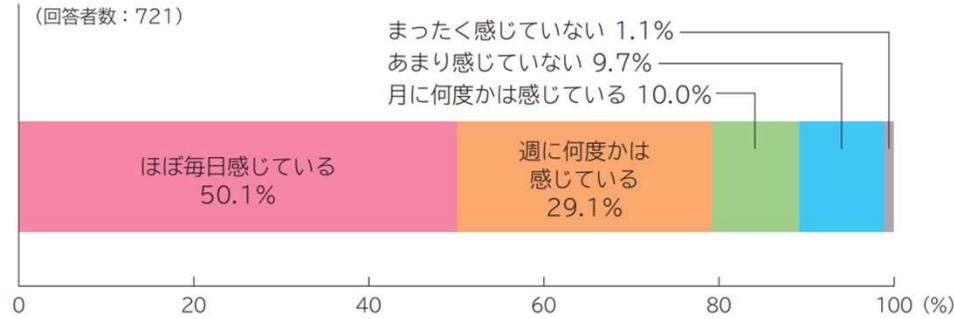
- ・研究対象となる人：薬剤師
- ・調査内容
 - ① 背景情報；勤務先規模、性別、年齢、薬剤師経験
 - ② ハラスメントの知識
 - ③ ハラスメント被害を受けた、見た
 - ④ ハラスメント相談実施の有無
 - ⑤ Well-being 調査
 - ⑥ 1年間で離職を考えた経験、離職の有無

【研究の背景】

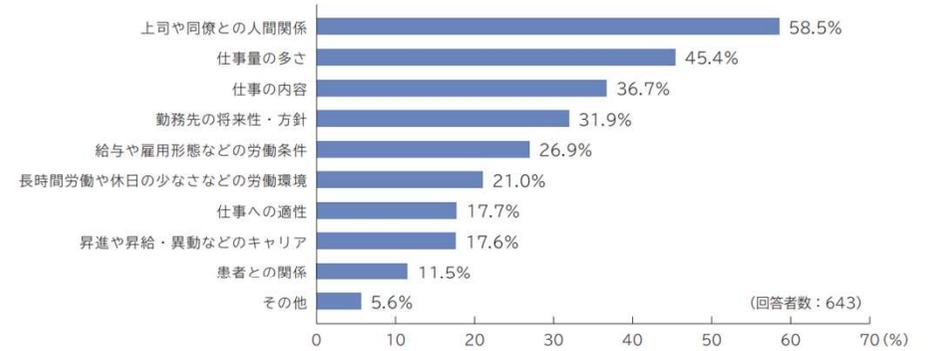
- 2019年に改正労働施策総合推進法、いわゆる「パワハラ防止法」が社会問題となりつつあるパワーハラスメント防止のために成立し、2020年6月より大企業で施行、中小企業においても2022年4月より施行され、ハラスメント対策が法的義務となった。
- 2020年厚生労働省実施「職場のハラスメントに関する実態調査」によると、過去3年以内にパワーハラスメントを受けたことがあると回答した者は31.4%。また、都道府県労働局における2020年6月の労働施策総合推進法施行後の「パワーハラスメント」の相談件数は1万8千件で対策は喫緊の課題となっている。
- 「薬剤師白書2020年度版」によると、職場アンケートの結果、受けたことがあるが44%、他の職員が受けているのをみたことがあるが14.1%と、全体では58.1%がハラスメントを経験。ハラスメントを受けたことがあるは、同年度の厚労省調査よりも12%高くなっている。「薬剤師白書2022年度版」では、ハラスメント経験は63.6%とさらに高くなっている。
- ハラスメント防止対策の有無が従業員の人材確保に重要となっているのは、薬局のみならず企業全共通の課題。病院全職員を対象とした院内ハラスメントの実態調査（病院；2020年2月号）では、194名の回答がありハラスメントの被害経験者は73名と約半数になり、そのうちの47.9%が離職を考えていたと報告されている。
- 働きやすい職場環境として、近年企業においてWell-beingが注目されており、日本人のWell-beingは世界的にみても低いランクに位置付けられている。Well-beingが高まると起こる良い変化は、ギャロップ者調査によると、変化への適応度45%高い、イノベーション3倍、営業成績・生産性20%–30% 高い、欠勤・職場の事故の減少、燃え尽き症候群 4倍少ない、退職率60%低くなることがわかっている。
- 医療職のWell-beingの状態は未だわかっていないことが多い。さらにハラスメントがWell-beingに与える影響の調査は見つけることができていない。

【薬剤師の仕事のストレス、やりがい、ハラスメントの状況】

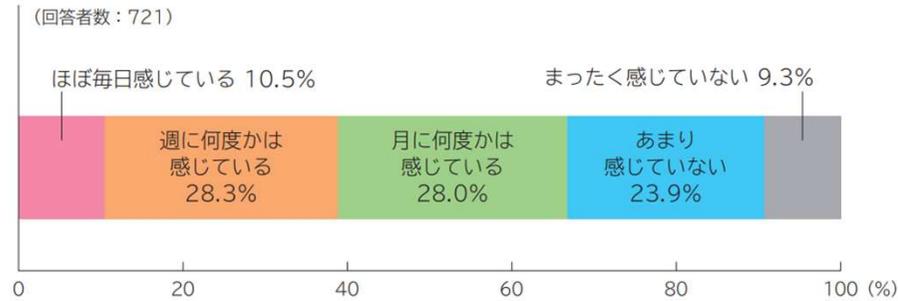
仕事をする上でストレスを感じますか？



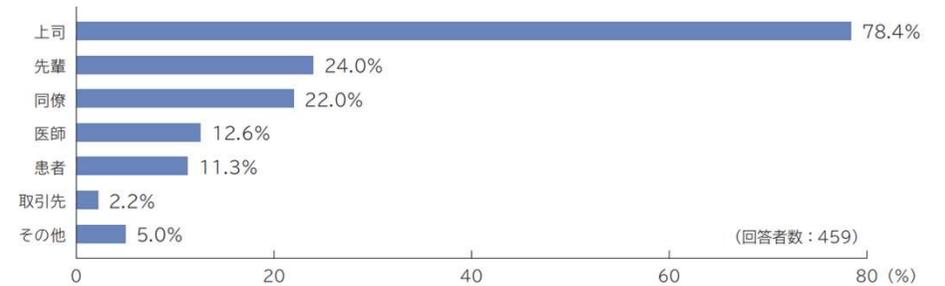
何に対してストレスを感じますか？（※複数回答）



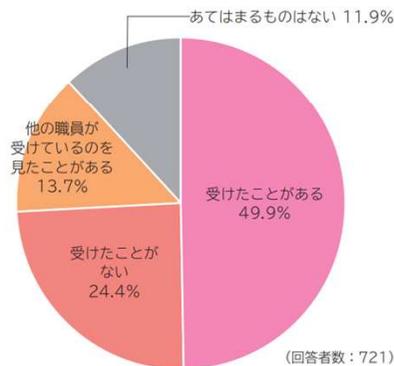
仕事をする上でやりがいを感ずますか？



誰からのハラスメントですか？（※複数回答）



職場のハラスメントの状況は？



【Well-being 幸福度調査 概要】

- Well-Being調査の名前：MHC-SF (Mental Health Continuum Short Form)
- 米国エモリー大学 Corey Lee M. Keyes 教授らによって開発
- 成人、12–18歳の学生まで、米国、オランダなど複数の国で多くの信頼性担保の研究が行われている
- 過去20年間で数百の研究で用いられている
- 英語、フランス語、日本語、ドイツ語、スウェーデン語、中国語、韓国語等に翻訳され用いられている。
- 2018年に筑波研究学園都市で行われた大規模調査（7,251名；男性63.1%）では総得点平均は28.7点。最も高い得点は男性30歳代31.2点、低いのは男性50歳代26.0点。女性は20歳代が30.5点と高く、50歳代が28.6点と低い。感情的、社会的、心理的それぞれの平均点は7.0、9.1、12.7点であった。
- MHC-SFの幸福感が高い人は、低い状態の人より6倍うつになる率が低く、他の人より死亡率も低い。
- Well-beingが高まると起こる良い変化は、ギャロップ者調査によると、変化への適応度45%高い、イノベーション3倍、営業成績・生産性 20%–30% 高い、欠勤・職場の事故の減少、燃え尽き症候群 4倍少ない、退職率60%低くなる。

MHC-SF (Mental Health Continuum Short Form) 感情的な幸福度を測定する尺度 3つの次元の幸福を測定

・emotional well-being : 感情的幸福

- ・ハッピー(質問1)
- ・人生に興味がある(質問2)
- ・人生に満足(質問3)

・social well-being : 社会的幸福

- ・社会貢献(質問4)
- ・ソーシャル統合(質問5)
- ・社会的実現(すなわち、社会的成長)(質問6)
- ・社会的受容(質問7)
- ・社会的一貫性(すなわち、社会的関心)(質問8)

・psychological well-being : 心理的幸福

- ・自己受け入れ(質問9)
- ・日常環境制御(質問10)
- ・他者との積極的な関係(質問11)
- ・個人の成長(質問12)
- ・自律性(質問13)
- ・人生の目的(質問14)

【世界幸福度 Well-being ランキング 2023】

順位	国名	スコア
1位	フィンランド	7.804
2位	デンマーク	7.586
3位	アイスランド	7.530
4位	イスラエル	7.473
5位	オランダ	7.403
6位	スウェーデン	7.395
7位	ルウエー	7.315
8位	スイス	7.240
9位	ルクセンブルク	7.228
10位	ニュージーランド	7.123
11位	オーストリア	7.097
12位	オーストラリア	7.095
13位	カナダ	6.961
14位	アイルランド	6.911
15位	米国	6.894
47位	日本	6.129

主観的な幸福度11項目（11段階法）
に6項目の内容が加味

- 1.一人当たり国内総生産（GDP）
- 2.社会保障制度などの社会的支援
- 3.健康寿命
- 4.人生の自由度
- 5.他者への寛容さ
- 6.国への信頼度

出典：[World Happiness Report 2023](#)

【日本語版 Mental Health Continuum Short Form (MHC-SF-J)調査表】

No.	下位因子	評価内容	Item
X1	EW	幸福感 happiness	しあわせを感じた
X2		生きる意欲 interest Of life	生きる意欲,もしくは人生への意欲がわいた
X3		満足感 satisfaction	満足感あるいは充実感を味わった
X4	SW	社会的貢献(感) social contribution	自分は社会に貢献することができる.
X5		社会的統合(感) social integration	自分は何らかのコミュニティに属していると思った(家,学校,会社, 習い事,インターネット等)
X6		社会的実現(感) social actualization	社会は自分にとって生きやすいところになってきていると思った
X7		社会的受容(感) social acceptance	人は基本的に善良だと感じた
X8		社会的一貫性 social coherence	自分は社会のあり方に納得できると思った
X9	PW	自己受容(感) self-acceptance	基本的に自分の性格は好きだ
X10		環境制御(感) environmental mastery	日常の業務をこなすのが得意である
X11		積極的な対人関係 positive relations with others	あたたかく信頼のおける人間関係があると思った
X12		自己成長(感) personal growth	人としてさらに成長し,よりよい人間になろうと思う経験をした
X13		自律(感) autonomy	自分の考えや意見を,自信をもって表現できると思った
X14		人生の有意義感 purpose in life	自分の人生に方向性あるいは意味がある

X:質問項目、EW:感情的well-being SW:社会的well-being、PW:心理的well-being

【Well-being 幸福度調査 医療関係者への実施事例】

(発表済)

- 炎症性腸疾患患者の幸福度 調査：豊島久雄 一般社団法人 日本医療経営実践協会
2020 年度<指定課題研究助成>

557名 (男性366、女性191)
平均年齢50.3±11.7歳

スコア	
MHC-SF合計	23.4
EW 3項目	5.7
SW 5項目	7.5
PW 6項目	10.3
MHC-SF合計	
男性	23.7
女性	22.9
MHC-SF合計	
クローン	21.2
潰瘍性大腸炎	24
クローン病と潰瘍性大腸炎の鑑別が困難	20.7

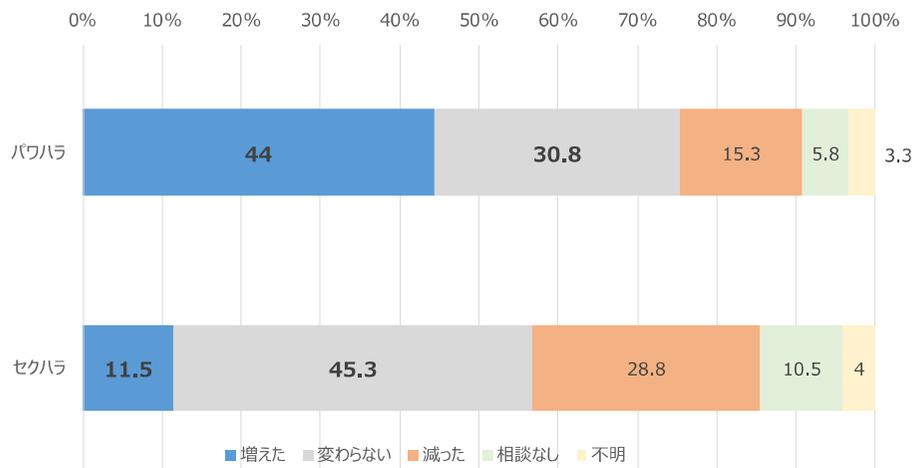
MHC-SF合計	
寛解期	24
活動期	22.2
わからない (知らされていない)	17.4
その他	23.6
MHC-SF合計	
軽症	24.1
中等症	23.2
重症	20.4
激症	13.4
わからない	18
不明	34

(発表準備中：日本経済大学ファーマシーマネジメント研究所)

- 製薬会社 研究開発本部、営業本部、管理部門などの各部署の調査
- 製薬会社 複数の会社の営業部門ならびにCSO（営業担当者派遣会社）部門の調査

【ハラスメント対策が必要な理由とメリット】

- 5年前と比べたハラスメントの変化：パワーハラは減らず、むしろ増加



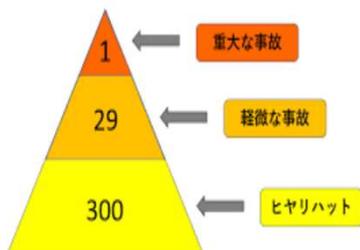
経団連調査；2021年9-10月、400社へのアンケート調査

- 事故の裏の軽微な事故やヒヤリハットが300件

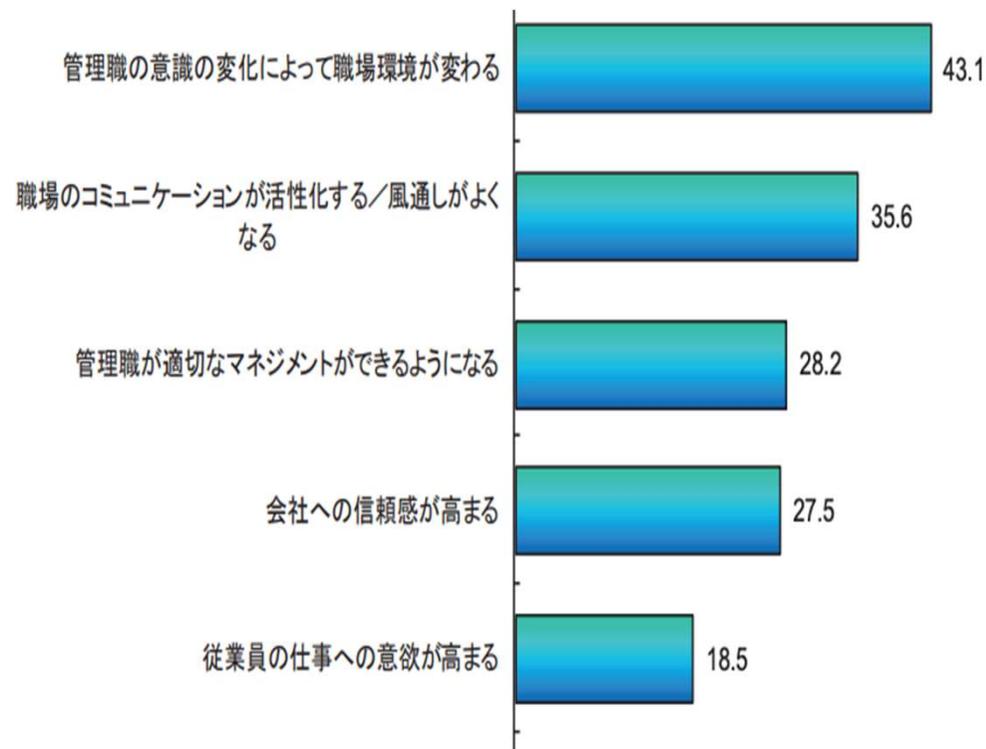
1件の重大事故の裏には

29件の軽微な事故と

300件の怪我に至らない事故がある



- ハラスメント対策を行うメリット



パワーハラスメントの予防・解決の取組を進めた結果、予防・解決以外に得られた効果（厚生労働省平成28年度企業調査）

【保険薬局勤務薬剤師 ハラスメント実態 パイロット調査】

● 実施背景

- 2022年4月に中小企業にもハラスメント対応が法的に義務付けられた
- 義務づけ後、約1年が経過した時点で、ハラスメント対応の実態を調査した

● 調査期間

- 2023年3月

● 調査方法

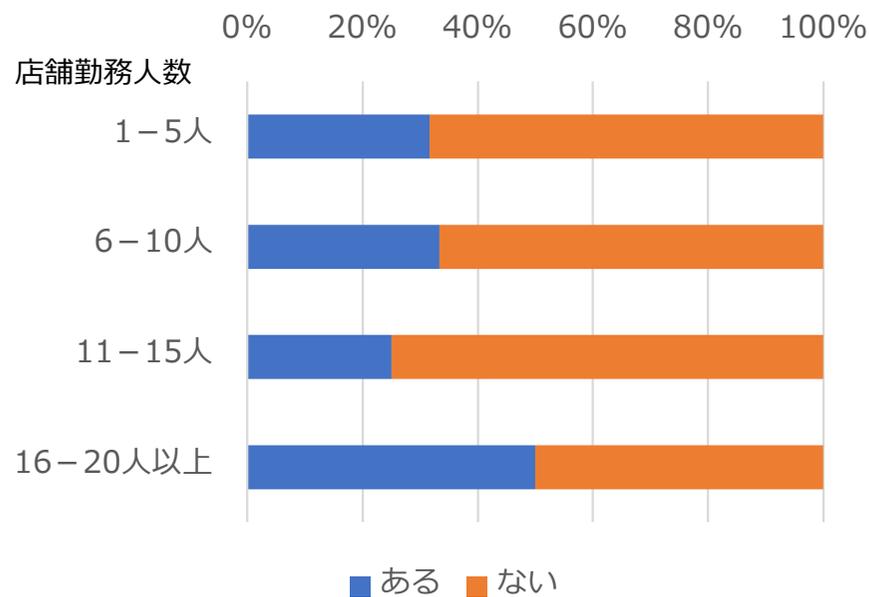
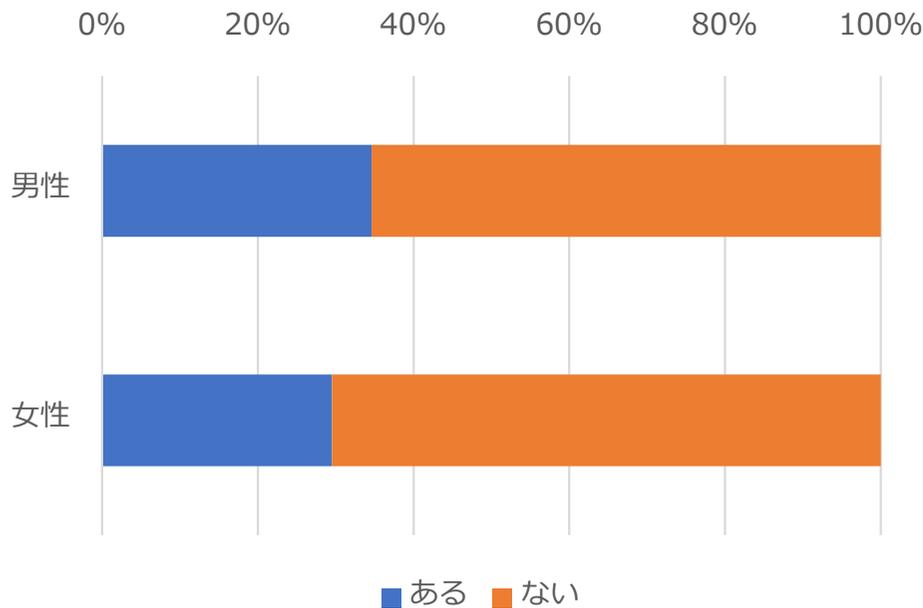
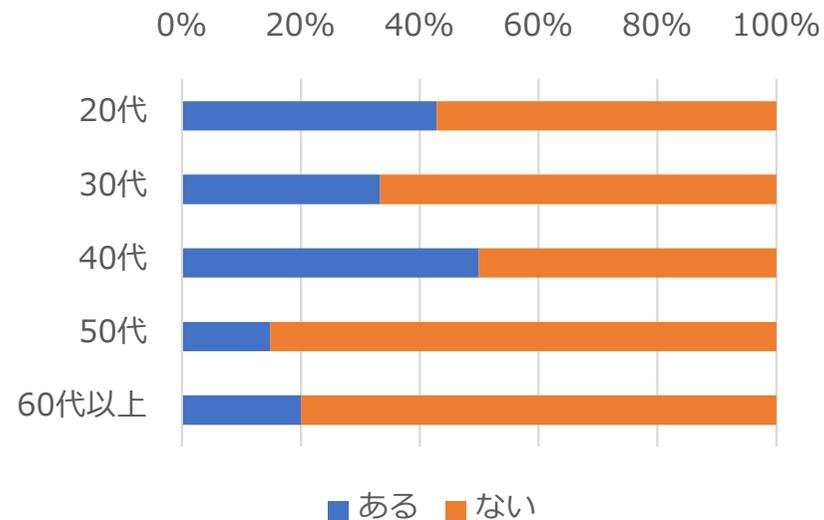
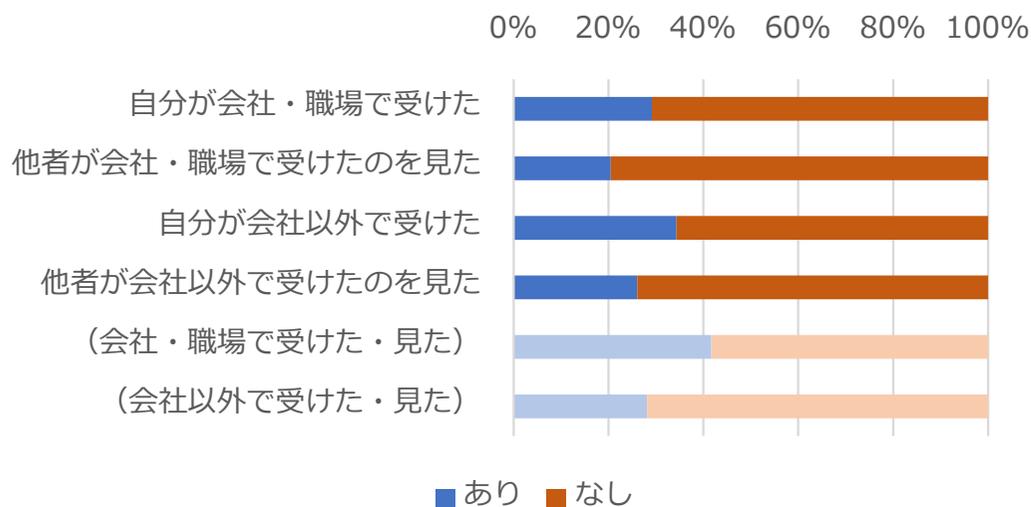
- 外部調査会社iBRIDGE社提供のFreeasyを使用したネット調査（iBRIDGE社登録会員）
- 薬剤師の所属組織などの予備調査後に、本調査を実施

● 調査数 96名

- 対象；保険薬局に勤務する薬剤師
- 男性 52、女性 44
- 保険薬局の店舗の就業者数；1-5人 38、6-10人 36、11-15人 16、16名以上 6
- 年代 20代7、30代26、40代26、50代27、60代以上10

【パイロット調査結果：ハラスメント体験の有無】(回答数96)

あなたはこの1年間で、ハラスメントを受けたり、受けているのを見たことはありますか？



【今後の研究計画】

1. 調査実施 2023年10–11月
2. データ解析 2023年12月–2024年1月
3. 調査報告 2024年2–3月
4. リサーチ・クエスチョン
 - 薬剤師のハラスメント実態と、Well-being、離職に関する実態と関連性
 - 勤務先規模、性別、年齢、薬剤師経験、仕事の役割、雇用形態などにより、ハラスメント実態と、Well-being、離職に関する実態と、それぞれの関連性
 - ハラスメント実態と、睡眠、生活習慣病などの疾病との関連性
 - Well-beingと睡眠、生活習慣病などの疾病との関連性